



「あきたのそこちから」に学ぶ

授業研究で、授業の質を高める！

2学期は、各校で公開授業を通じた授業研究が多く行われる時期です。本号では、城南小学校で行われている、授業研究について、特徴的な3つの取組を紹介します。

① 授業研究の方向性を示す提示授業

「シンカタイム」…シンカタイムⅠでは、自力解決の結果を出し合い、シンカタイムⅡでは、出された意見を比較・検討しながら、まとめにつながる意見へと集約していきます。

城南小学校では5月と6月に2回、提示授業が行われました。研究主任の先生が中心となり、校内の先生方に向けて、授業を公開しています。城南小学校では、授業の展開部分を「シンカタイム」と名付け、5月の提示授業では、より多くの児童が「シンカタイム」のねらいを達成できるための手立てが提案されました。

このように、**提示授業は、明確な目的を持って実施されます。全教員がこの提示授業に基づいて協議をし、1年間の授業研究の方向性を共通理解します。**この提示授業を受け、この後、先生方が公開授業を行います。

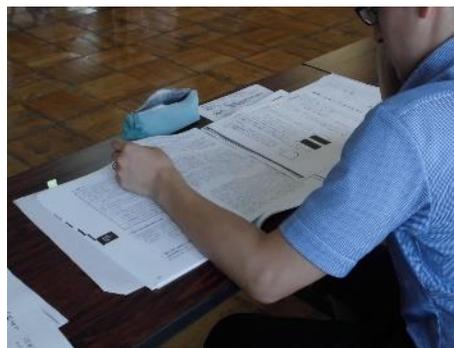
② 統一された学習指導案

城南小学校では、学習指導案の様式や枠などが年度当初に提案され、文字の大きさや字体、余白の広さ、ページ数、書き出しの言葉、文末の表現などの書き方が、統一されています。また、内容についても、「児童の実態」という項目では、①学級で4月から取り組んできたこと、②前年度、前単元等から児童に関わる系統性の2点を書くようになっており、**積み重ねの視点を重視**しています。

書き手からすると、記入例に沿って書きやすい反面、枠が決まっているため、**書くことを精選し推敲する必要があります。**また、指導案検討の場では、情報を共有しやすく、**話し合いの内容が焦点化される効果が期待されます。**



学習指導案の検討の様子



先生方は全員、学習指導要領解説を持って来ています。

城南小学校の学習指導案【様式】

ここだけ15ポイント
それ以外は10.5で！

第2学年1組 国語科学習指導案
令和2年5月28日(木) 2校時
授業者 (T1)
(T2)

☆字体はMS明朝、シンカタイムだけMSゴシックで
☆TT指導=T1:主にコーディネート T2:主に板書担当

1 単元名 じゅんじょ〜 **変更1** 指導目標
教材名 たんぼぼの〜
①知識及び技能
②思考力、判断力、表現力等=指導事項をそのまま記載
③学びに向かう力、人間性等=学年の目標をそのまま記載
※国語科は③に係わる指導事項は示されていないため!
文末の表記:①②は「〜できる」 ③は目標の文言で文末「〜する」

上下余白:18mm
左右余白:20mm
★厳守で!

2 単元の指導目標
○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能(2)ア】
◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
【思考力、判断力、表現力等C(1)ア】
○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
【思考力、判断力、表現力等C(1)ウ】
○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

余白や、字体、字の大きさが決められています。また、「単元の指導目標」は、学習指導要領に示された「内容のまとめり」の記載を生かしています。

児童について
(男子〇名、女子〇名、計〇名)

- *書き出しは、「児童は、～」
- *「児童」で統一
- *児童の実態：①②を両方入れる。
①4月～取り組んできたこと(学級)
②2～6年生：前年度、前単元等から、児童に関わる系統性
- *留意点：「児童について」の特性を踏まえ、「単元について」と重複しないように記述
- *語尾の例
ア～を好んでいる(好きな児童が多い。)
イ～が得意な(できる)児童が～見られる。
ウ～が苦手な(できない)児童が～見られる。
エ～(個人)差が大きい。(小さい。)
オ～育ってきている。
カ～学習を行った。(継続してきた。)
キ～は、十分とは言えない。
ク～は、あまり多くない。
ケ～手立てを工夫している。
コ～できるように繰り返し行ってきている。

単元について

- *書き出しは、「本単元は、～」
- *前段では、単元全体の特色について記述
①この単元で付けられる力は何か。
②この単元に、児童はどう取り組むのか。
- *単元全体の計画や本時の指導と関連付け
- *留意点：「単元の指導計画」「指導にあたって」「本時の指導」指導の手立て等はこの3つに整合性が必要
- *語尾の例
ア～説明的文章(物語文)である。
イ～の構成になっている。
ウ～の文章構成を理解するのに適している。
エ～に適した(構成)教材だと言える。
オ～共感的に、読み進めることができる。
カ～自分に置き換えて読むことができる。
キ～感情移入しやすい。(共感できる。)
ク～が期待できる単元であると考える。
ケ～力を身に付けられる単元である。

「児童について」「単元について」に書く内容が例示されています。書く分量も決まっていますので、この範囲に収まるように書くようになります。

6 本時の実際(4/9)

変更4「6 本時の実際」はT1、T2の支援を分かりやすく記載する⇒A4横の用紙に書く！

(1) 本時のねらい
(2) 学習過程

叙述を並べ替える字句を通し、時間や順序を表す言葉に着目し、事柄の順序を正しく捉えることができる。

確認子どもから引き出す学習課題ではなく、(1)本時のねらいとまとめの整合性で見ると！

段階	学習活動 ★シンカタイムの発問	時間	予想される児童の反応 ★シンカタイムの反応	教師の支援・評価		資料など
				T1	T2	
導入	1 前時までの確認をする。 確認①児童から引き出す↓ 2 本時の課題をつかむ。 たんぼぼのちえの正しいじゅんぱんは、どうなるのかな。	5	「始め」「中」「終わり」に分かれていたが、この順番はおかしいな。 正しく並べるためには、どうしたらいいのかな。 今日の課題は、どんな言葉になるのかな。	・前時の学習を想起し、構成を確認する。 ・順番の変化に着目させるように、児童から言葉を引き出すようにする。	・T1の確認が児童に伝わるように、学習掲示や拡大本文を提示する。 ・T1が引き出した児童の言葉を整理し、学習課題につながる板書をする。	・学習掲示(段落図) ・拡大本文 ・シート
展開	3 文を正しい順番に並び替え、自力解決をする。 ★シンカタイムⅠ どの言葉で、分かったのかな。 確認②4学習活動とほぼ同じ内容/意見の出し合い ★シンカタイムⅡ なぜ、この順番で「たんぼぼのちえ」を説明したのかな。 確認③「本時のねらい」を一致させる内容！	7 23	・時間を表す言葉を見付けると順番が分かりそうだな。 ・正しい順番は○○だと思います。 ・「二、三日たつと」だから最初だと思うな。 ・「このころになると」は「やがて」より、時間が経っていると思う。 ・絵や時間を表す言葉とたんぼぼの知恵は時間と同じ順番で書いているね。着だね。 ・絵を使って時間の順番に書いているから分かるね。 ・時間の順番に知恵を書いた。	・机間指導を行い、児童の自力解決を見取り、話し合いで取り上げる考えを盛り込む。 ・支援が必要な児童が、自ら意図的に指名をする。 ・シンカタイムⅠの発問を用いて話し合いをコーディネートし、時間や順序を表す言葉を児童の発言から引き出す。 ・本時のねらい「たんぼぼさく」の知恵の時系列のために、気付かせるために「シンカタイムⅡ」の発問を用いる。	・自力解決が困難な児童に挿絵を見せたり、言葉に着目するように助言したりする。 ・T1の指名を受け、拡大本文やカードを用いて児童の発言を支援する。 ・時間や順序を表す言葉に着目できるように線を引いたり、囲み等、大事な言葉を取り出す。(一次板書) ・T1のコーディネートから児童の発言を工夫し、自然な流れで話し合いを整理する。	・ホワイトボード ・挿絵や言葉カード ・拡大本文 ・シート 確認④教師の支援は語尾が「～する」で

城南小学校の学習指導案は、A4で4枚です。1枚目が「単元名、単元の目標、児童について、単元について」です。2枚目が「単元の評価規準、単元計画」、3枚目が「本時のねらい、本時案」、4枚目が「板書計画」です。本時案と板書計画は、A4の横に書きます。

③ 改善策を考える公開授業後の協議会

授業後の協議の内容をまとめる表

グループに分かれて協議を行った後、グループから全体への報告を重視し、全体で協議する時間を十分にとります。協議の内容をまとめていく表には、「成果」と「課題」だけでなく、「改善策」という項目が設けられ、提案を行うように設定されています。授業者にとっては、批判や指摘だけに終わらないことで、前向きに受け止めることができます。また、協議会に参加した先生も、自分事として考え、自身の授業に生かすことができます。

このように、課題に対する具体的な改善策を示すことにより、今後の公開授業に生かすという視点が強く意識されています。

①の視点について	②の視点について	その他
成果	⇒	成果
課題	⇒	課題
改善策	⇒	改善策